

令和2年10月21日

学群学生
大学院学生 各位

教育担当副学長
清水 諭

対面授業への出席条件等について

対面授業への参加に当たり、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、出席条件や行動履歴の記録等、学生の皆さんにとって重要な事項について改めてお知らせします。

以下の点に留意して、引き続き秋学期の対面授業に参加してください。

1. 対面授業への出席条件について

気温も湿度も低くなる季節を迎えますが、健康観察記録表への記載等、体調管理に努めつつ、対面授業に参加いただくようお願いします。

1) 毎日、起床時と夕方に検温するとともに、風邪の症状の有無について確認し、健康観察記録表に記載願います。対面授業へ出席する日の直近の14日間平熱が保たれ、風邪の症状がない場合に、出席が可能となります。対面授業に出席する際は、健康観察記録表を担当教員（授業担当教員、指導教員等）に提示できるよう携帯してください。

2) ただし、上記1)にかかわらず、次に該当する学生は、対面授業に出席する当日に発熱等の風邪の症状がない場合は、出席が可能となります。

・直近14日間に発熱等の風邪の症状が現れた学生のうち、「新型コロナウイルス感染が疑われる場合の本人の行動フロー」

（<http://www.tsukuba.ac.jp/about/antidisaster/covid-19-20200918.html>）の「A」に従い、医師の診断を受けPCR検査が不要と判断された場合、又はPCR検査の結果が陰性で、風邪の症状が改善された場合。

3) また、新型コロナウイルスに感染又は濃厚接触者と特定された学生は、以下の期間は対面授業への出席を認めません。

・PCR検査等により、新型コロナウイルスに感染していると診断されてから、厚生労働省が定める退院や療養生活を終了する際の判断基準を満たすまでの期間。

・保健所により濃厚接触者と特定され、保健所が指示する期間（感染者との最終接触日の翌日から起算して14日間）。

その他、以下の点に留意願います。

・「新型コロナウイルス感染が疑われる場合の本人の行動フロー」の「A」～「D」に該当する場合は、登校せずに自宅待機し、対応部局（担任もしくは指導教員又はエリア支援室学生担当）へその旨を報告願います。

2. 行動履歴の記録について

秋学期において、対面授業を再開するにあたり、学内から感染者が生じた場合に、素早く濃厚接触者を特定し、感染拡大を防止する必要があります。

このため、学生の同意が得られた場合は、教室内の座席配置表を回覧して氏名を記入していただくなどの方法により、着席位置の記録を行うよう各教員にお願いしています。

また、学生の皆さんにはWEB 掲示板（TWINS）にて毎回の着席場所を健康観察記録表（行動履歴欄あり）様式の行動履歴欄等に記録することをお願いしておりますが、引き続きの実施をお願いします。

併せて、感染者との接触状況の把握方法として、厚生労働省にて公開している新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の使用を推奨します。

行動履歴を記録することについては、感染を防ぐ意識を高め、感染防止につなげることで、対面授業が中止となってしまうようにすることも目的のひとつと考えていますので、ご協力の程お願いします。

3. 活動時の注意事項について

感染予防の啓発を図るための学内掲示ポスター及びWEB 掲示板（TWINS）等でもお知らせしていますが、以下の点に留意し感染防止に努めるようお願いします。

- 1）毎日起床時と夕方に検温する。
- 2）検温において、平熱より高い場合や風邪の症状がある場合は、対応部局（担任もしくは指導教員又はエリア支援室学生担当）に連絡し、入構せず自宅待機し、健康観察を徹底する。
- 3）入構時は必ずマスクを着用する。ただし、屋外で、人と十分な距離（1メートル以上）を確保できる場合には、マスクを外して構わない。
- 4）学内滞在時は、常に周囲との間隔を1メートル以上空ける。
- 5）頻繁に手指の消毒を行うか、水と石鹸による手洗いを徹底する。
- 6）近距離での会話や、大声を出すことは控える。

特に、学生の実験・実習、演習時には、以下の点について留意願います。

- 1）3つの密（密閉、密集、密接）を避けるための施設利用スケジュールを構築の上、施設内の密を避けつつ、可能な限り短時間での実験を行うものとする。

- 2) 研究設備や備品について、端末操作画面やスイッチ、ドアノブ等複数の学生等の手が触れる場所を必要に応じて消毒すること。また、実験等の性質も考慮しつつ、ドアを常時開放するなど、学生等の手が触れる場所を少なくすること。
- 3) 安全管理等の理由により、複数の人が同時に操作を行う必要がある研究施設や設備等においては、マスクの着用、フェイスシールドの着用、またはアクリル板・透明ビニールカーテン等による遮蔽等の措置を行うこと。
- 4) 単独で長時間の実験・施設利用を行う場合は、利用開始・終了の声掛けや記録、事故時の連絡手段の再確認など、万が一の事故に備えた安全対策を講じること。
- 5) 実験動物、遺伝子組換え生物（微生物、植物、動物）、病原性微生物や放射性物質を使用する研究の場合、機関管理のもと、関係法令等を踏まえ適切に実施すること。
- 6) 講義のオンライン化等に伴い空いている教室や実験・実習室等がある場合には、必要に応じそれらを積極的に活用し、3つの密を避けること。

学生の皆さんの安全・安心を第一に教育・研究を進めていきます。お気づきの点がありましたら、以下へご連絡ください。

【連絡先】

教育推進部 教育推進課

029-853-2202